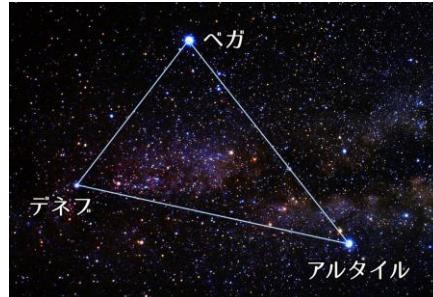


九条北小学校 校長室だより

N0.13 令和3年7月5日



この週末、静岡県熱海の土石流のニュースが入ってきました。被災されている方が早く通常の生活へ戻されることを祈るとともに、自分たちも、「いつ災害に会うかわからないこと」そして「自分の身は自分で守ること」ができるようにする必要性を、改めて感じました。



★ 七夕の言い伝え～「夏の大三角」を見つけてみよう！★

夏の夜、8時～9時頃に東の空を見上げると、3つの明るい星が見つかります。それらの星を線で結ぶと大きな三角形ができます。これを「**夏の大三角**」といいます。**ベガは織りひめ、アルタイルはひこ星**です。これらの星は7月7日ごろにいちばんよく見えることから、七夕の言い伝えが始まったといいます。ロマンチックですね。7月7日の夜には東の空をお見逃しなく！

もう少し具体的に「見つけ方」を紹介します。東の夜空を見上げて、一番空高いところで明るく輝いている白い星が、**こと座の「ベガ」**です。夏の大三角の中で一番明るいので、最初に見つけやすい星です。「ベガ」からこぶし2個分くらいのところにある明るい星が、**はくちょう座の「テネフ」**です。「ベガ」からこぶし3.5個分くらいのところにある明るい星が、**わし座の「アルタイル」**です。これらの**「ベガ」「テネフ」「アルタイル」**の3つを結んでできるのが**夏の大三角**です。4年生の理科でも学習します。

★ 7月7日は「七夕」～七夕の由来、知っていますか？★

広辞苑には次のように説明しています。

五節句の一つ。天の川の両脇にある牽牛星と織女星とが年に一度相会するという、七月七日の夜、星を祭る年中行事。中国由来の乞巧奠(きこうでん)の風習と日本の神を待つ「たなばたづめ」の信仰とが習合したものであろう。奈良時代から行われ、江戸時代には民間にも広がった。庭前に供物をし、葉竹を立て、五色の短冊に歌や字を書いて飾りつけ、書道や裁縫の上達を祈る。七夕祭。銀河祭。星祭。

(児童朝会では、熱海の土石流の話の後、七夕の話をしました。)

七夕は、昔、中国から日本に伝わった星祭りです。ひこ星と、織りひめという男女の星が、天の川をはさんで向かい合っていて、この2つの星が、1年に1度、7月7日にだけ会えるという言い伝えから、祭りが始まりました。

七夕の言い伝えとは、「はた織りが上手な神様の娘『おり姫』と働き者の牛飼いである『ひこ星』は、神様の引き合わせで結婚し仲良く過ごしていましたが、楽しさのあまり仕事をせずに遊んでばかり。激怒した神様は天の川の両端に引き離してしまったが、悲しさのあまり元気をなくした2人を見かね、7月7日を年に1度だけ会える日として許しました。」

人々は「織りひめさまのように、はた織りやおさいほうが上手になりますように」「織りひめさまのように願い事が叶いますように」と、野菜やくだものをそなえて、おまつりをするようになりました。やがて、いつしか人々は「上手に字が書けますように」「織りひめさまのように願い事が叶いますように」と、笹や竹に五つの色の短冊をかざるようになりました。

